

鈴木氏「非常に悔しい」 近藤氏「正直に説明を」

県選出の
国会議員

県農業委員大会では、2区の鈴木憲和（自民）と比例東北の近藤洋介（民主）の両衆院議員、岸宏一（自民）と大沼瑞穂（同）の両参院議員の県関係国会議員4人が出席。それぞれあいさつでTPPに触れた。

岸氏は県農業会議会長として冒頭で「大幅な市場開放を求められ、大変厳しい内容。政府に万全の対策を求める」と述べた。来賓としてあいさつした鈴木氏は「残念ながら大筋合意に至り、申し訳ない。自分自身も、非常に悔しく、力不足であったと痛感している」と述べ、農家の不安を払拭（ふっしょく）するた

め、県内各地で説明を尽くすと強調した。

一方、近藤氏はコメ、牛肉、豚肉など重要5品目の関税を守ることが国会決議だったとした上で「政府がきちんとした情報開示を国会でしていない、この議論を進めていないことが極めて残念」と指摘。なぜ、重要5品目の「聖域」を守れなかったのかについて、「一刻も早く国会を開き、国民に丁寧に正直に説明することが必要」と語った。大沼氏は「TPPについて説明するとともに、（農家の）所得を上げていくことが一番だと思っている」と述べた。